

『豊後国志』について

『豊後国志』は、幕府の本地誌編纂事業の一貫としてまとめられたもので、岡藩が編纂を命じられた。岡藩では寛政十年（一七九八）唐橋世済に編纂を命じた。世済は田能村行蔵（竹田）などを助手に選んで編纂を始めた。

『豊後国志』は、総説と豊後国内の八郡のそれぞれについて、

郷名、荘名、村里、租税、疆域、形勝、路程、山川、関梁、土産、神祠、仏寺
墳墓、名宦、流寓、人物、烈女、文苑

などを系統的に調査し、記録したものである。

調査は、文献はもとより現地を踏んで、古老から口碑を集めた。私領と幕府領が入り乱れた豊後国にあって取材に苦労したが、文化元年（一八〇四）八月に完成して幕府に献上された。

元本は国会図書館所蔵のもので、「附図」は竹田の筆になるものである。「別府史談」十一号の付録とした「附図」は、文献出版社が昭和五十年に出版した「豊後国志」のものである。ただし、本書では速見郡の全図を収録できず、別府付近の部分のみを付録とした。塚原を通り十文字高原を経て、北中・原中に至る「花棚道」が、森と飛地（鶴見村）を結ぶ主要路であった。



豊後國圖第二

豊後國志附図〔部分〕

田能村竹田筆（原図彩色図）

此道大分郡賀来郷赤松嶺ニ
至リ府内城ニ達ス



此道大分郡賀来郷朴木村ニ
至リ府内城ニ達ス

二道此所ニ合シ玖珠郡帆足郷今宿村ニ至リ森營ニ達ス
此道大分郡賀来郷朴木村ニ至リ府内城ニ達ス
此道大分郡賀来郷赤松嶺ニ涉リ府内城ニ達ス
此所片濱ニテ舟掛ナシ大潮ノ時ハワツカニ小舟ノ出入アリ
註（別府村の名札が割清となっていたが別府に直した。編者）

此道大分郡賀来郷赤松嶺ニ
至リ府内城ニ達ス

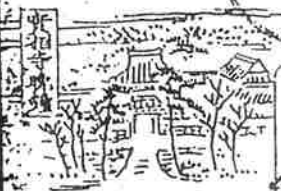
享和年間（1801～）

32718
K 453
Sa 82

K5511

豊後州
速見郡

鶴見 昭湯山 稻荷先堂 温泉 略縁記



新田寺

豊後

大山之秋月

小倉之夕照

鶴見之温泉

別府之温泉

温泉寺

蒸湯

貳ヶ所

内

男蒸湯 壹ヶ所
女蒸湯 壹ヶ所
供三壹丈貳尺四方

瀧湯

壹ヶ所

上屋横貳間半長廿六間
瀧高廿壹丈瀧数拾

浴湯

五ヶ所

内三ヶ所上屋有之

湯治宿屋數軒

藥師堂壹ヶ所

仁聞菩薩之佛作
土中出現之靈
御丈五尺五寸餘

照湯畧縁記
同湯治場画圖

供三藥師堂有之